

平成16年5月

2004-5月評価における変更事項

(独)家畜改良センター 改良部

激化する国際競争の中で、国内種雄牛が海外種雄牛に対して互角に渡り合うためには、より早い世代で魅力ある種雄牛を登場させることが急務であり、その方策の一つとして、より早期に、短い乳期での記録を採用することが検討されている。

現在の遺伝的能力評価では、より多くの牛群検定参加雌牛の評価値を計算するために採用条件を緩和した再計算を実施しているが、この再計算についてのみ短い乳期の記録を採用すれば、種雄牛評価値には影響を与えずにより多くの雌牛をより早く評価することができ、結果として、より早い世代で魅力ある雌牛が候補種雄牛の母として利用可能になる。そこで、2004-5月の乳用牛評価では雌牛再計算についてのみ、次のとおり採用条件を緩和している。

なお、種雄牛、雌牛同時評価の採用条件は、今回の評価では変更していない。

・雌牛再計算の立回回数条件変更

(旧) 乳期を終了し検定日数が240日以上。あるいは、検定中で立回5回以上。

↓

(新) 乳期を終了し検定日数が240日以上。あるいは、検定中で立回3回以上。